平成 30 年度研修員　三橋利佳さんの声

プロフィール

大学で国際関係を学んだ後、青年海外協力隊でベナン共和国に派遣され、帰国後商社物流会社での勤務を経て在ベナン日本国大使館にて草の根・人間の安全保障無償資金協力外部委嘱員を務める。その後大学院で持続可能な経済開発・ソーシャルビジネスを学び、修士論文プロジェクトの延長でソーシャルビジネスの団体を設立。本事業の海外派遣では WFP ブルンジで Programme Policy Officer として勤務。

1.　平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

幼い頃から世界の不平等（貧困問題）に関心があり、「世界中の人々が平和に暮らせるようにすること」を自分の目標として掲げてきました。大学、大学院、実務での経験や途上国を中心に 70 か国を渡り歩く中で考えたことは、更なる知識と経験を積み、憧れであった国連機関で今まで経験していないアプローチで開発に携わることです。そこで、平和構築人材育成事業を修了した友人の勧めもあり、応募しました。

2.　国内研修に参加した感想は？

国際機関の形態や問題解決の手法を様々な国際機関で経験を積まれたプロフェッショナルな講師陣から学び、さらに会議進行等のロールプレイを行ったり、自衛隊の訓練を行ったり、実践的で非常に有益なものでした。また、国際機関で働く上での心構えやスキル、面接の練習やアドバイス等と手厚くサポートして下さり、今でも大変助けられております。
また、国内研修で出会った個性豊かな仲間は私の財産となっています。多くの学びを与えてくれる同期の存在に感謝しており、今後も関係を維持していきたいと思っています。

3.　海外派遣での活動について教えてください。

Programme Policy Officer の Asset Creation and Livelihood 担当として WFP ブルンジ事務所でレジリアンスのプログラム企画と実施に従事しました。私の業務は主に下記の3点です。

（1）他の国際機関との合同プロジェクトで、WFP ブルンジオフィスのフォーカルポイントを務める

4つの国際機関、国際 NGOs、現地政府が関わり、ブルンジの栄養改善を図る3年間のプロジェクトで WFP ブルンジ代表として関わりました。WFP の役割は、FAO が野菜の種を受益者に給付し受益者が野菜を育てている間、生計をサポートするため現金給付を行うことでした。しかし、政府からのストップがかかり事業が止まってしまい、プログラムの実施ではなく、計画変更・提案が主な業務でした。

WFP/FAO の地域事務所にて、国際機関と INGOs とのミーティング後

（2）Asset Creation and Livelihood Programme の実施

WFP で主に行っている緊急支援、難民食糧支援、学校給食や母子栄養支援の他に、レジリアンスのプログラムとして、Asset Creation があります。地域に必要な活動をコミュニティーの代表が決め、実施し、その労働対価として現金給付を行うプログラムです。住民が決めた地域活動(コミュニティーワーク)は、土砂崩れを防止する水路の整備、市場や学校にアクセスしやすくするための道路建設等です。給付された現金は食料購入や家畜購入に充てられるほか、組合でお金を集めて共同農業を行うために使用されます。私が派遣されてからはじめて現金給付の方法として SCOPE という受益者を管理するシステムが導入され、パートナーNGO に対して研修を行いました。

パートナーNGO に対する現金給付研修の様子

コミュニティー代表が集い、
住民参加型計画を行った開会式

（3）WFP イノベーションプログラムに応募

年に3回 WFP は飢餓撲滅のため、新しいアイディアを集め、イノベーション・ブートキャンプを開催します。そこで選出されると 10 万ドルが支給され、プロジェクトを実施できる制度があるのです。以前ソーシャルビジネスとしてコーヒーの果実の果皮を利用した商品開発を行った経験があるため、ブルンジのコーヒー組合の協力を得て、イノベーションプログラムに応募しました。案は2回とも採用されませんでしたが、コーヒー農家の現状調査で実態を知り、コーヒー組合の方々と出会うことができ、WFP ブルンジとコーヒー組合が協力する形のビジネスモデルを作成したことは貴重な経験となりました。現在も連絡を取り続け、プロジェクトを行える日が来ることを願っています。

4. 海外派遣での感想は？一番印象に残っていることは？

今まで日本の組織またはアジア内のインド企業で働いてきたため、アジア系が私一人という WFP ブルンジオフィスの環境は今までにない貴重な経験となりました。WFP の組織体制、運営を学ぶだけではなく、業務を通して、多くのパートナー機関と関われたことで WFP 以外の自立支援プロジェクトを学ぶ機会に恵まれたことにも感謝しています。

女性に対する暴力撤廃の国際デー、WFP ブルンジ事務所にて

そして、何よりも替え難いことは、素晴らしい同僚に出会えたことです。特に元上司は非常に器が広い方で、誰に対しても丁寧に接し、どんなに仕事が忙しい時でも時間を割き、皆から尊敬される存在でした。私が赴任して3か月程で異動となってしまいましたが、彼が私のロールモデルのような存在になりました。他にも、自分が困っている時に、普段あまり話さない同僚が部屋に立ち寄って声をかけてくれたり、サポートしてくれたりする優しさに助けられていました。

また、WFP ブルンジオフィスには有志による山登りクラブがあり、毎週土曜日の早朝からブジュンブラの裏山へ仲間と一緒に登っていました。普段仕事ではあまり接触する機会のない同僚と話しながら、山で暮らすブルンジの家を通り、ブルンジ人の生活を垣間見ることができました。山登りの3、4時間はブルンジの文化や生活に対しての理解が深まったように思います。

同僚たちと土曜日の山登り

ウガンダの難民キャンプ視察

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

自分の専門性や業務を通じて得られた経験を活かし、途上国開発や平和構築を軸とし、選択肢を広げながらキャリアを積み重ねていきたいと考えております。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

本事業に参加する機会を得ることができ、国内研修では人道支援・平和構築に関する知識を深めることできました。海外派遣では国連でのインターンシップとは違い、一職員として働くことができました。国連ボランティアという名称で「ボランティア」となっておりますが正規職員や契約職員と対等に勤務します。WFP ブルンジオフィスではニジェール人の国連ボランティアがチームリーダーであり、ギニアからの国連ボランティアがフィールドオフィスの代表を務めており、責任ある仕事を任されていました。国連機関での勤務を目指す方は、国連システムの一員として経験を積むことができるため、非常に良いエントリーポイントになると思いますので興味がある方は是非チャレンジしてください。